

ビジュアルコミュニケーションを超えた新しい市場を開拓

エクストリームスポーツに適した自分撮り タフカメラ

2017年10月27日に発売が開始された“G'z EYE(ジーズアイ)”は、過酷な環境下で行われるエクストリームスポーツの撮影に適したタフカメラの新ブランドです。カメラ本体の「GZE-1」は、4m落下耐衝撃性能や50m防水性能などを備えたタフネスボディに、決め技の瞬間などをスローモーションで撮影する「ドラマチックスロー機能」を搭載しています。G'z EYEの開発とその特長についてコンシューマ開発本部の松原直也に聞きました。

コンシューマ開発本部
開発統轄部
第一商品企画部部长

松原 直也



男性の自分撮りカメラとは？

以前より「G-SHOCKのようなカメラを」との要望はありましたが、それだけでは商品になりません。その一方で、当社の女性向け自分撮りカメラは、中国や台湾で「自拍神器(自分撮りの神の機械)」と呼ばれるほどのご好評をいただいています。彼女たちには撮った写真をSNSにアップして自分のブランド力を高めるために、高価なカメラに投資するというスタイルがあります。

それならば男性はどうだろうと考えてみると、自分が熱中していることやライフスタイルを発信したいのではと考えました。その象徴的なものが、スケートボードやサーフィン、BMXなどのエクストリームスポーツでしょう。彼らがどの



G'z EYE

G'z EYE (ジーズアイ)

ように撮影しているのを見ると、サーフィンや自転車などの道具や自分自身にカメラを装着して撮っています。さらに仲間が同じスポーツをして追いながら撮影しています。いずれも転倒などのリスクや過酷な使用環境があり、男性の自分撮りカメラはG-SHOCKと同じ世界観で創れると考えてG'z EYEを開発しました。

タフネスと臨場感を追求

カメラ本体である「GZE-1」は、過酷なエクストリームスポーツでの使用に耐える4m落下耐衝撃性能、50m防水性能、IP6Xの防塵性能、-10℃の耐低温性能を備えました。女性の自分撮りは「きれい、かわいい」の追求ですが、エクストリームスポーツをする男性が求めるのは「カッコいい」でしょう。その「カッコいい」を最大限に引き出すために、決め技などの臨場感と躍動感を高める超広角レンズを採用し、動画の一部だけをスローモーションで撮影する「ドラマチックスロー機能」を搭載しました。これまでスロー動画は、撮影後に編集することが一般的でしたが、「GZE-1」はボタンを押すだけで、その前後やボタンを押す前、押した後の何秒間かをスローモーションで撮影でき、その場でそのままSNSにアップすることができ、撮るためだけでなく、まさにコミュニケーションツールとなっています。

発売前にプロのサーファーやダンサーに使ってもらいまし

たが「カッコいい、持ちやすい、広角とドラマチックスローで印象的な映像が撮れる」とご好評をいただきました。私どもが想像していないような使い方、今まで撮れなかった動画を撮ってSNSにアップしてもらえることを楽しみにしています。

新しい画像を通じたコミュニケーション

当社は「新しい画像を通じたコミュニケーションの創造」をテーマに、ユニークなカメラを開発してきました。1995年に発売した液晶モニター付きデジタルカメラ「QV-10」は、撮った画像をそのままモニターで見て楽しむコミュニケーションを実現しました。2002年発売の世界最薄のカードサイズ液晶デジタルカメラ「EX-S1」は、常にカメラを持ち歩き、いつでもどこでも撮影して画像をそのままモニターで見るコミュニケーションを実現しました。

現在、こうしたいつでもどこでも写真を撮って楽しむビジュアルコミュニケーションツールはスマートフォンに移行しました。当社は、スマートフォンでビジュアルコミュニケーションの楽しさを知った方の、よりハイレベルなビジュアルコミュニケーションを楽しみたいという要望に応えるツールを開発していくことが役目であると考えており、G'z EYEもその一つです。今後もカメラという概念を超えた画像の楽しみ方を追求するチャレンジを続けていきたいと思えます。

